

テーマ 『知事と語る長野県の森林・林業の未来 ～多様な木材利用の創造～』

開催日時・会場

- ✚ 平成 25 年 2 月 17 日（日）
13 時～14 時 35 分
- ✚ 塩尻市総合文化センター 講堂

参加者

- ✚ 参加者 約 260 名
- ✚ 意見交換
 - ・阿部知事
 - ・進行役：小林 紀之 氏（日本大学大学院法務研究科客員教授）
 - ・話題提供者：櫻井 秀彌 氏（征矢野建材株式会社代表取締役）
 - ・ // 浜田 久美子 氏（作家）
 - ・ // 鈴木 信哉 氏（中部森林管理局長）



会場の様子など

多様な木材利用の創造や県産材の需要拡大の必要性等について、県民、有識者、林業関係者等の皆様のご意見をお聞きし、本県が森林県から林業県に飛躍していく可能性を探る契機とすべく、平成 24 年度「森林フォーラム」の一環としてタウンミーティングを開催しました。

有識者のお話しを伺いながら、傍聴にお集まりいただいた皆さんにも赤と青の色紙をお配りして、知事からの問いかけに答えていただいたり、ご意見を伺ったりしながら進めました。

参加者の主なご意見

会場の約 7 割が林業関係者ということでしたが、残り 3 割の一般の方も含めて、お集まりの皆さんは木材利用への意識が高く、9 割の方がプラスチック製品などよりも、木材製品を買うことを意識しているということでした。

会場の皆さんの中から、林道整備、山づくり、林業経営、カラマツのくい材としての活用、森林ボランティアとしての間伐材の活用などについて発言していただきました。



知事は、「長野県は森林県だけど、林業県じゃないと思う。森林面積は全国で 3 番目だが、1 ヘクタールあたりの木材生産量は、全国で 43 番目で、せっかくの森林資源が、ほとんど生かされていないというのが私の問題意識です。林業分野は、平成 25 年度から始まる新たな総合 5 か年計画でも重要な位置づけをしています。長野県の森林は、県民に対してはもちろん、CO₂の吸収県として、他の地域や世界に対しての貢献度が高い。さらに、我々が山を森を守っ

て、水資源をかん養しているから、下流県は水に困らずやっつけていける。だから、自分たちだけが良ければいいという発想では、山は財産にならないし、稼ぎは出てこない。世界に対してもほかの地域に対しても、貢献するんだという誇りと意気をしっかり皆さんと共有した上で、森林を守り林業を活性化していきたいと思います。」などと述べていました。

※参加者のご意見等については、以下で県の対応状況を含めて公開する予定です。

<http://www.pref.nagano.lg.jp/soumu/koho/kurumaza/towndata.htm>